

ランブール (Limburg) 事故の概要

2002年10月6日

2002年10月6日の朝、フランス籍のタンカー・ランブール(299,364重量トン)は、イエメンのアシュ・シール(Ash Shihr)ターミナルSBMへ接近中に、突如爆発・炎上した。当初、爆発・炎上の原因は不明とされていたが、現在ではテロリストによる攻撃であったと見られている。被害は、右舷の4番タンクに受けており、ここにはアラビアン・ヘビー原油約13,500トンが積まれていた。同船は、ラス・タヌラ(Ras Tanura)港で54,000トンの原油を積み、残りをイエメンで積んだ後、マレーシアに向かう予定となっていた。

火災は、この1つのタンクで2日間にわたって燃えつづけ、大半は燃焼したが、一部は海上に流出した。ITOPFのBrian Dicks博士は、10月8日に現場に到着したが、そのときにはすでに火災は鎮火し、本船は沖合いに曳航されていた。当時の周辺の状況は、数百トンの油が沿岸近くの海上に漂流しており、海からの風によって一部が接岸を始めていた。また、恐らくこの新造タンカーのダブルハルの間に溜まっていたと思われる油が、少量ながら数日間流出を続けた。



10月8日以降で、オイルフェンスによる囲い込み・回収を行うような油塊は見られず、また炎上し、風化した油の特徴として、油処理剤の使用も困難なほど重質化していた。この結果、海上での作業は一切行われなかった。その後数日にわたり、空と陸から調査を行った結果、300トン程度の原油が流出したとの結論に達した。そしてこの油は、イエメンの海岸線に沿って断続的に約120Km、ターミナルの南側からアル・ムカーラ(Al Mukalla)、マイファア(Mayfaa)そしてビル・アリ(Bir Ali)にまで広がっていた。10月15日までに、いくつかの油塊がマイファアからビル・アリにかけて散見されたが、合計では10トンかそれ以下に過ぎず、海上回収が行えるほどの状態ではなくなっていた。海岸線には油がところどころかたまりで張り付いており、数百メートルにわたって汚染されているところもあったが、それ以外の汚染は中度から軽度にとどまった。



海岸線での汚染除去作業は、アル・ムカーラの港湾管理者の監督の下、イエメン当局が契約した業者により行われた。

イエメンは、1969年民事責任条約(CLC)を批准しているものの、テロ攻撃は同条約の適用除外項目の一つである。

2002年10月末、船主は、イエメン国民への意思表示として、基金の了承なしにイエメン当局に対し支払いを実施した。これにより本船は積荷の移送と修理のため、フジャイラ(Fujairah)に向け、出港が認められた。

(ITOPF ホームページより)